

(4) 冬期間の撮影状況

令和4年度業務より継続して冬期間に設置されていた8地点における撮影結果を表9に示した。インターバルは30分である。動物の撮影個体数は、不明種を含めて計46個体、そのうち哺乳類は41個体であった。正確な種まで同定できた確認種数は哺乳類10種、鳥類1種であった。確認された種を業務期間と比較すると、哺乳類は6種、鳥類は8種少なかった。

最も撮影個体数が多かった種はタヌキの15個体で、次いでキツネ10個体、テン5個体、ニホンザル4個体、ニホンノウサギ2個体であった。哺乳類の補正個体数が最も多かったのは調査地点2の1.96個体で、次いで調査地点8の0.55個体、調査地点6の0.51個体、調査地点3と0.47個体、調査地点7の0.19個体であった。

撮影された哺乳類について、調査地点別に補正個体数を集計し図16に示した。ニホンザル、キツネ、タヌキは調査地点2で最も多く撮影され、ニホンジカ及びニホンノウサギは地点2でのみ、アナグマ、ハクビシン及びカモシカは調査地点6でのみ、ニホンリスは調査地点8でのみ撮影された。ただし、撮影個体数自体が少ないため、地点による補正個体数の違いに明確な傾向はみられなかった。

図17に、全調査地点で撮影された哺乳類の補正個体数を、撮影月ごとに集計したものを示す。全種含めた月別補正個体数は、12月が最も少なく、3月が最も多かったが、月ごとの差はほとんどみられなかった。種ごとに見ると、テンが12月に突出して多く確認されたことを除いては、どの種も月ごとの確認数に差はほとんどみられなかった。

撮影時間ごとに集計したものを図18に示す。冬期間の撮影個体数そのものが少ないため、業務期間中との差を明確に言及することは難しいが、業務期間との明確な差はみられなかった。

表 9 センサーカメラ（30 分インターバル設定）による各調査地点の確認種・個体数¹⁾（冬期）

種名	1	2	3	4	5	6	7	8	合計
ニホンザル <i>Macaca fuscata</i>		2	1	1					4
キツネ <i>Vulpes vulpes</i>		8					1	1	10
ヌキ <i>Nyctereutes procyonoides</i>		7	4			1	1	2	15
テン <i>Martes melampus</i>		1			1	1		2	5
アナグマ <i>Meles anakuma</i>						1			1
ハクビシン <i>Paguma larvata</i>						1			1
ニホンシカ <i>Cervus nippon</i>		1							1
カモシカ <i>Capricornis crispus</i>						1			1
ニホンリス <i>Sciurus lis</i>								1	1
ニホンウサギ <i>Lepus brachyurus</i>		2							2
不明ネズミ類				1					1
哺乳類個体数合計	0	21	5	1	1	5	2	6	41
哺乳類補正個体数 ²⁾ 合計	0.00	1.96	0.47	0.09	0.09	0.51	0.19	0.55	3.854
哺乳類種数合計 ³⁾	0	6	2	1	1	5	2	4	21
アトリ <i>Fringilla montifringilla</i>		3		1					4
全個体数合計	0	24	5	3	1	5	2	6	46
全種数合計 ³⁾	0	7	2	2	1	5	2	4	23

1) 連写の場合は、一連の撮影で写った最大個体数 2) 延べ撮影頭数/CN×10、詳細は本文参照 3) 不明種は種数に含めていない

※調査期間：令和 4 年 12 月～令和 5 年 3 月

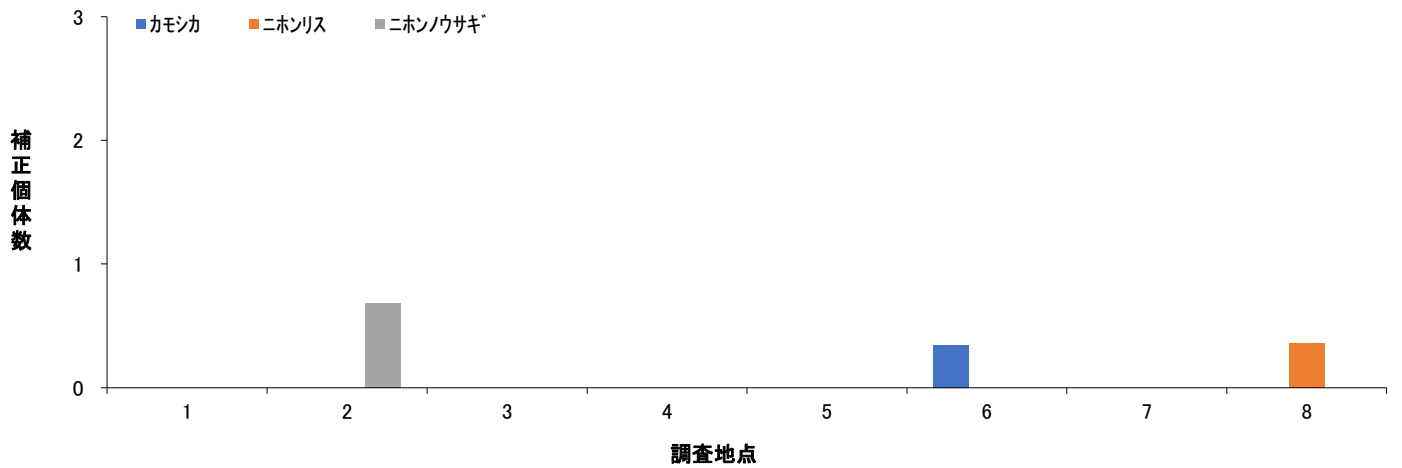
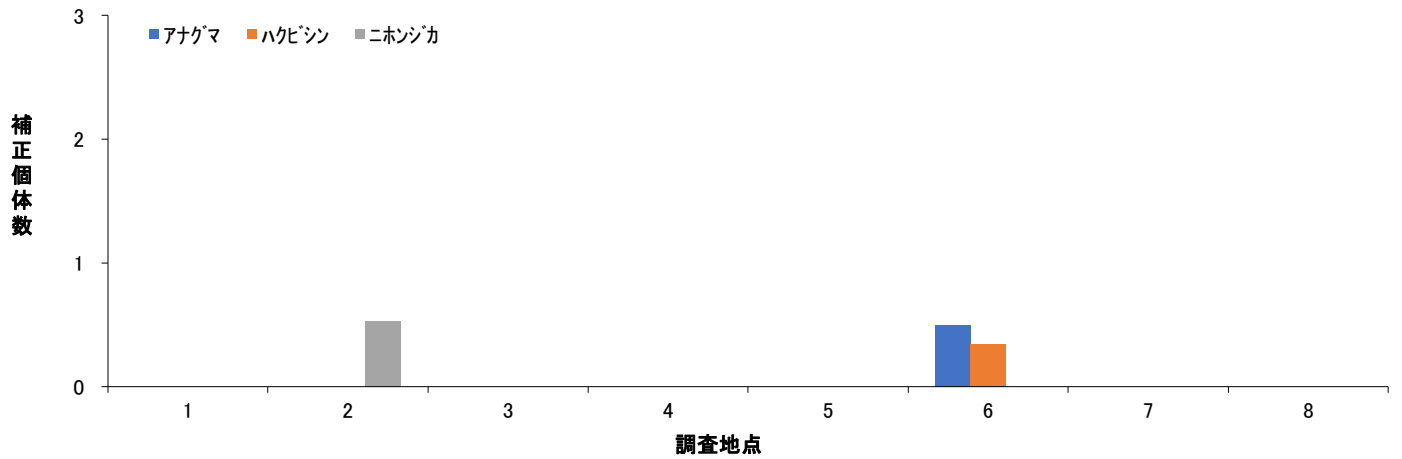
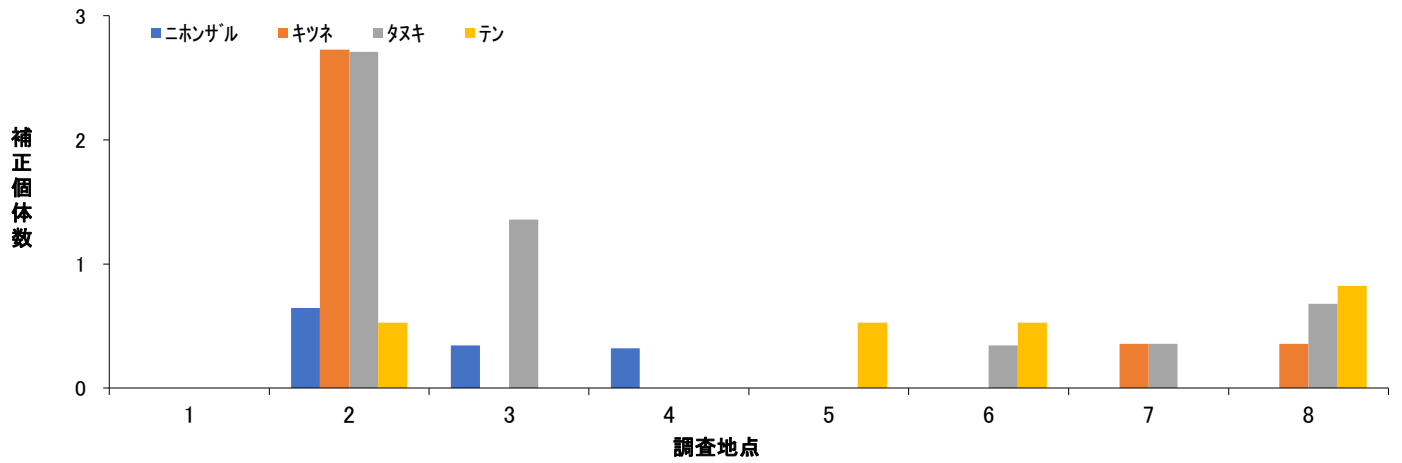


図 16 哺乳類の調査地点別補正個体数（冬期，30 分インターバル設定）

※調査期間：令和 4 年 12 月～令和 5 年 3 月

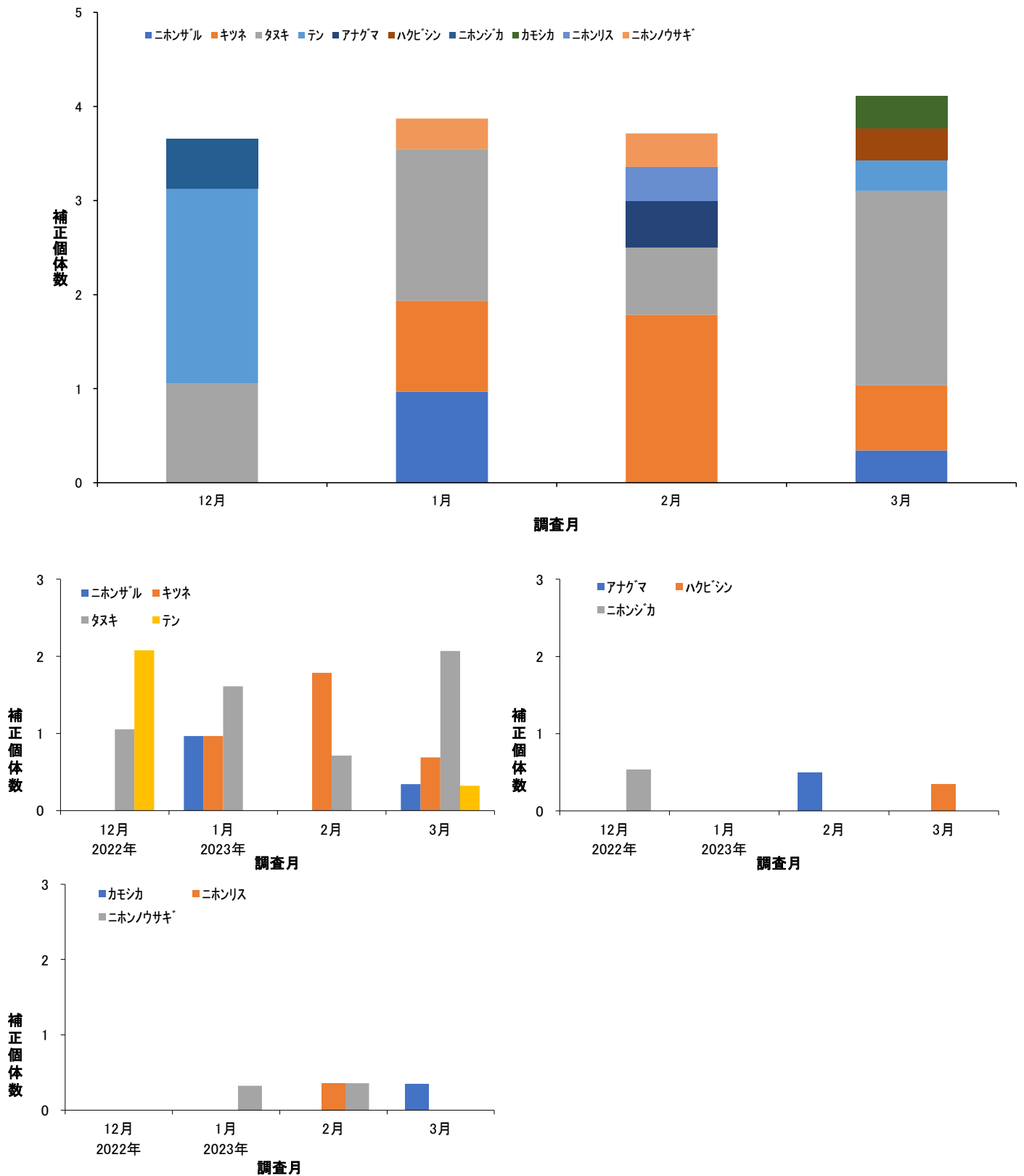


図 17 哺乳類の月別補正個体数（冬期，30 分インターバル設定）

※調査期間：令和 4 年 12 月～令和 5 年 3 月

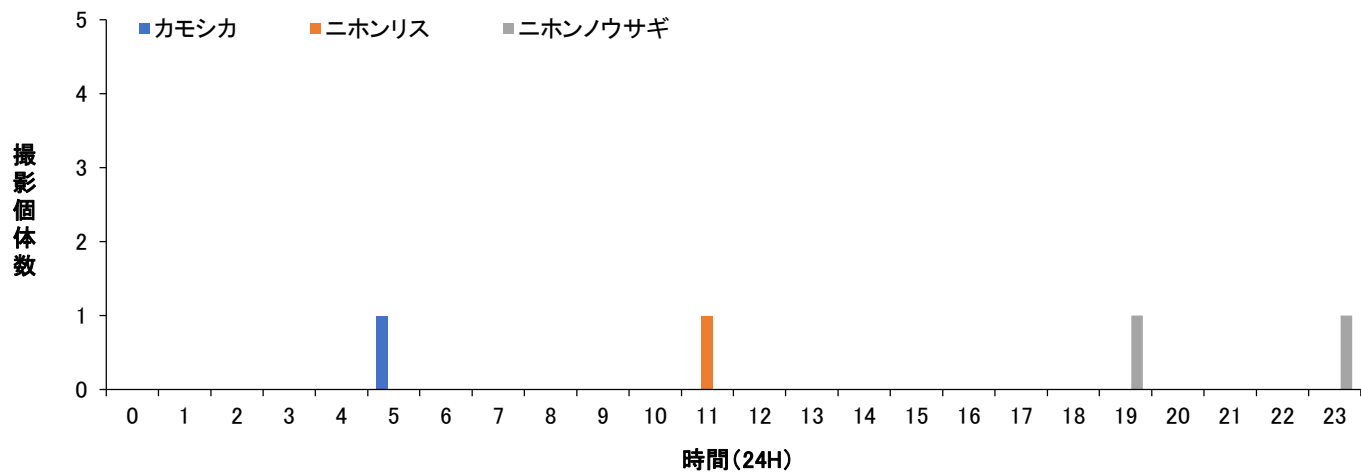
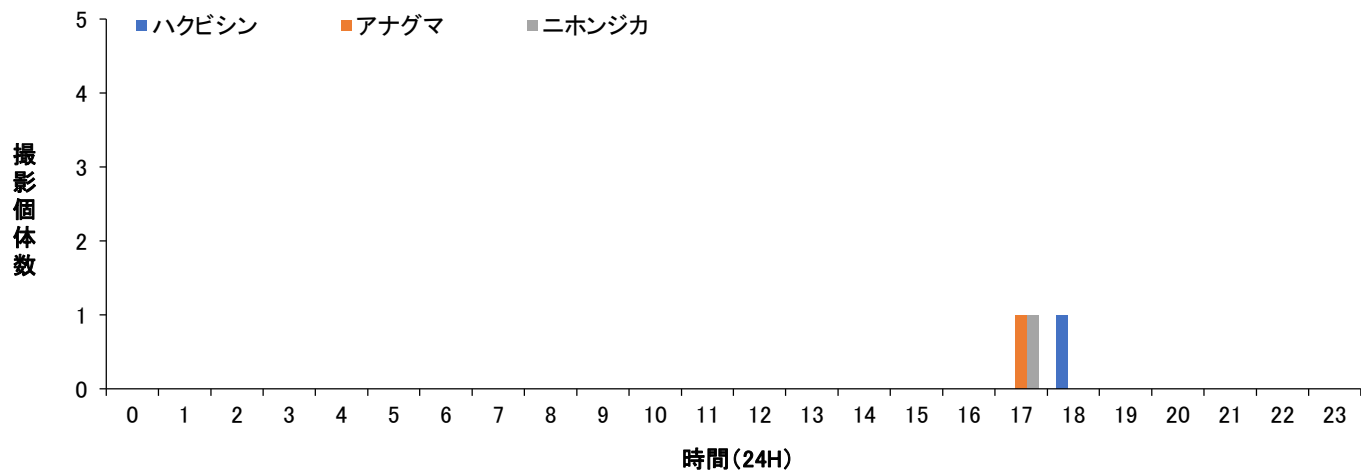
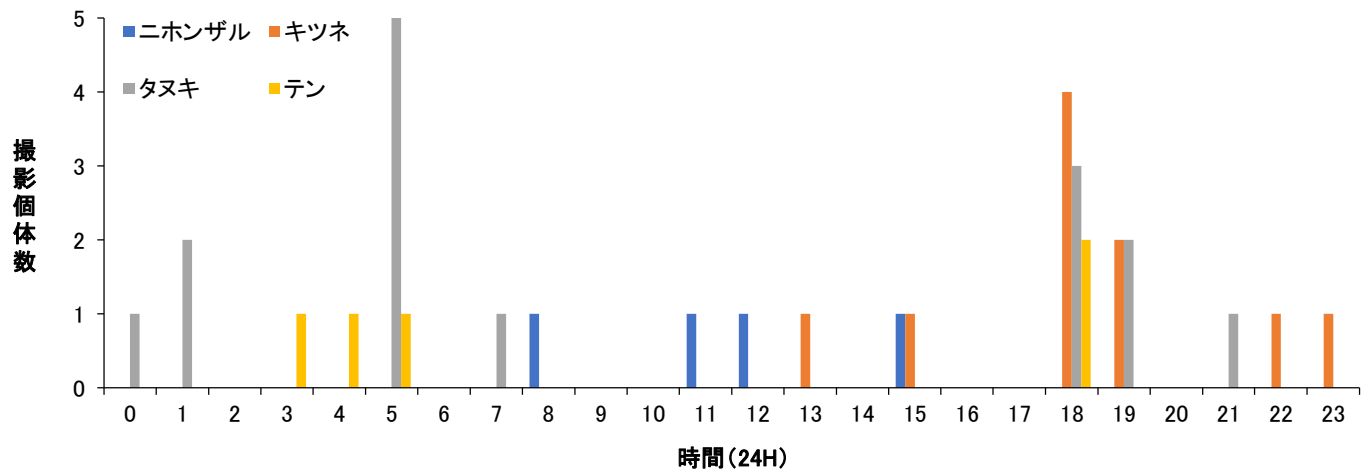


図 18 哺乳類の時間別撮影個体数（冬期，30 分インターバル設定）

※調査期間：令和 4 年 12 月～令和 5 年 3 月